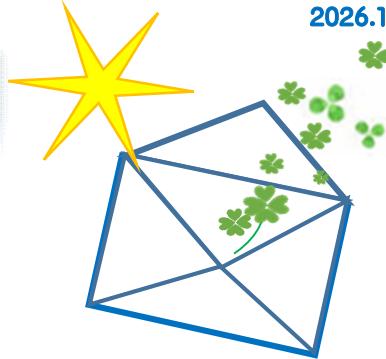


# だれもがキラリ



私たちが日々生きていくために大切な事は大きく分けて2つあります。一つは収入、もう一つは毎日の暮らしを回すための家事です。働いてお金を得ることができなければ生活は成り立ちませんし、同時に食事・洗濯・掃除をし、家族の健康や生活を整える家事がなければ、暮らしは回りません。では、「その欠かせない家事」は一体誰が担っているのでしょうか。家庭の中で当然のように行われているこの労働は、果たして平等に分担されているのでしょうか。

## 家事労働について考えてみませんか

### この差についてあなたはどう思う？

6歳未満の子を持つ共働き家庭の平均家事時間（週平均）※

女性 6時間33分



男性 1時間55分

日本の場合、共働きと専業主婦の家庭の男性の週平均家事労働時間が変わりません（※6歳未満の子のいる共稼ぎ・片稼ぎ両方の週平均家事労働時間合計女性7時間28分、男性1時間54分）。これから日本の日本を考えていく上で、この差をなくした方が得だと思いませんか？女性が家事中心に生活せざるを得ない環境を変えることができれば、家庭の平均収入がずっと上がるかもしれません。

※社会生活基本調査 2021より

### 女性だけが障害物競走！？



左の絵を見て気付くことはありますか？

社会というレースにおいて、女性のレーンにはたくさんの家事という障害物があります。男性は、女性のその状況に気付いてすらいないように見えます。

男女平等とは何なのでしょうか。考えさせられますね。

# こんなに減ってる！専業主婦

女性の仕事場が主に家庭の中のみだった時代は  
完全に過去のものです。



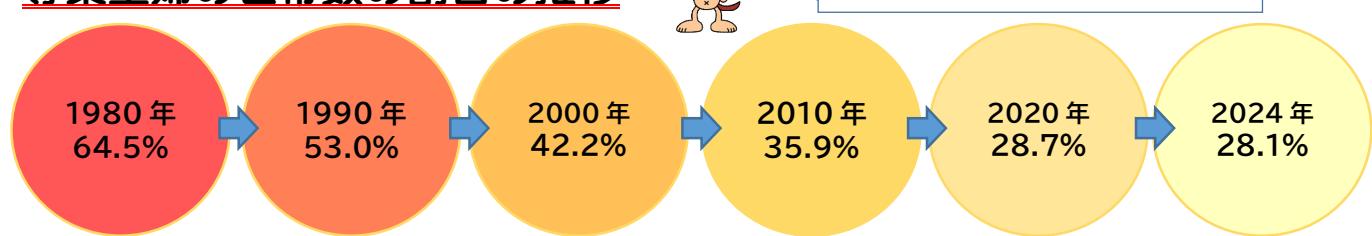
～80年代

80年代～2000年代

2010年代～現在

## 専業主婦の世帯数の割合の推移

50年以上、ずっと右肩下がり



## 妻65歳以下の共働き世帯数の割合の推移

もう少し踏み込んで、若い世帯の共働き率を見てみよう！

2010年  
65.1%

2020年  
76.5%

2023年  
78.0%



今や現役世帯の約8割は共働き！それなのに女性の家事負担割合もいまだに約8割なんだね。それに加えて女性だけが子どもを産める以上、育児も完全に公平にとはいいかかもしれないね。

どう考えても8割は多過ぎると思わない？もしかして女性のほうが過酷なの？

### 豆知識

#### 今や専業主婦は都市部に多い！？

今は夫の収入が高いほど専業主婦の割合は増えます（収入の高い都会の方が専業主婦になりやすいと言えます）。昨今よく取り沙汰されている配偶者控除は制度自体に矛盾が生じているかもしれませんね。比較的余裕のある世帯がその恩恵を受けやすくなります（ただし年収一千万円以上の方は配偶者控除を受けられません）。もちろん事情があって働けない女性もいるでしょう。八方よしの政策は難しいかもしれません、よくよく考えなくてはならないときがきています。

# ちょっと待って！！無視できない男性の辛さ

vol.3 でもとりあげたように、女性ばかりが苦労をしているわけではありません。とりわけ男性にはばかり負担がかかりがちなのは「働け」「高収入を得ろ」というプレッシャーではないでしょうか。さらに男性は傷つき悩んでも（女性と比較して）それを周りに相談しにくいため、なかなか本心をさらけ出すことができません。男性の自殺率は女性の2.1倍というデータ（厚生労働省令和5年）もあります。以下のような場面でつらいと感じるのは男性特有かもしれません。

○背の順で並ばされるとき

○当然のように一家の中での主収入者であることを求められるとき

○一家を経済的に支えていかなくてはならないという責任感・負担の重圧はおそらく女性以上

○仕事を休むというハードルが女性と比べて高いとき

○人間関係の中心が職場関係者に偏りがち

○「男らしさ」の規範・男はこうあるべきという押しつけ

○男性への暴力の軽視



## POINT

### 日本は男性の幸福度が低い国

幸福度比較では、幸せであると答えた人の数が男性42.0%、女性57.2%となっており、特に40代男性の幸福度が低い傾向にあるようです。年収、既婚か未婚か、健康や人間関係が幸福感を作用する大きなファクターになっているようです。

（出所）2020年1都3県20～50代未既婚男女より荒川和久氏作成

## これからの日本を生きる男女と家事のあり方

### ・家事代行サービスの利用

まだまだ実費で高額ですが、自治体によっては小さなお子さんのいる家庭などでは補助が使える場合も。家事を業者等に頼る心理的ハードルが日本人は高いと言われていますが、そのあたりの意識も変えていけると良いですね。



### ・女だから、男だからという呪縛からの解放

男が女がではなく、互いに思いやりを持って、どちらかが働けなくなったときはもう一人が働く。それが自然にできるように。もちろん家事も労働です。



### ・家事はできる時に互いにやれば良い

共働きの夫婦の場合、早く帰った方が夕飯の支度をはじめておく、休日に余裕のある方が食事の作り置きをしておく、どちらかが料理をしている間どちらかは洗濯や掃除をする、など。



女性が働いて当たり前の時代というのも今更。それがスタンダードになってから長い時間がたっている。そして時代は元には戻らないんだ。性別役割分業意識をなくし、女性も男性も互いにフラットに助け合って生きていくよ。

# 上がるかも！？家庭の年収と GDP

## 1. 家の中の仕事は「すごい価値」がある

掃除、洗濯、料理。これらをお金に換算すると、日本では1年間で143兆円分もの価値になります（内閣府経済社会総合研究所の試算による）。これは、日本全体が仕事で稼ぐお金の約4分の1にもなる、とても大きく大きな金額です。



## 2. もしこの時間を「外の仕事」に使えたら？

もし、お家の中の仕事を家族で分担したり、サービスを頼んだりして、その分の時間を外での仕事に回せたら、個人の収入も日本全体の経済も、もっと豊かになる可能性があります。

**GDPは、簡単に言うと「市場でお金が動いた合計額」のこと。家事という「お家の中の仕事」が外に出ると、次のようなプラスの連鎖が起きるよ！**



### ☆「新しいサービス」が生まれる

自分で行っていた料理や掃除を、家事代行サービスやお惣菜の購入などに切り替えると、そこに「新しい売上」が発生します。あなたが家事代行に1,500円払えば、その1,500円がGDPに加算されます。

### ☆「働く人」が増えて、給料が動く

家の負担が減り、その分を外での仕事に使えるようになると、社会全体で働く人が増えます。これまで家事のために仕事をセーブしていた人がフルタイムで働けば、本人の給料（所得）が増えます。企業にとっては、人手不足が解消されてもっと多くの商品やサービスを作れるようになり、国の生産力（GDPの源）が高まります。



### ☆「お買い物」がもっと活発になる

外で働いて増えたお給料は、生活を豊かにするための買い物や旅行に使われます。GDPの約半分は、私たち個人の「消費（お買い物）」でできています。収入が増えた人が買い物をする → お店が儲かる → お店で働く人の給料も上がる、という経済の循環が生まれ、GDPを大きく押し上げます。



このように、お家の中に隠れていた「労働」が市場に出ることで、お金がぐるぐると回り始め、国全体の豊かさ（GDP）が増えていくのです。



## 小説・絵本・書籍のご紹介



### 対岸の家事/朱野帰子

専業主婦の詩穂は、孤独で終わりのない家事に「自分の選択は正しかったのか」と葛藤します。周囲には、休めないワーキングマザーや育休中の男

性など、家事や役割に限界を迎える人々がいました。詩穂は彼らに寄り添いながら、無償労働に縛られた社会で、自分らしく生きる道を模索し始めます。



### おてつだい おてつだい 作・絵/長野ヒテ子

カエルの兄弟、け口ちゃん、ケケちゃん、ケロロちゃんは、お手伝いが大好き！朝食作り、洗濯、買い物…家族みんなで行います。ちょっとくらいの失敗も「あら あら あらららら」とリズミカル。カエル一家の楽しい1日がテンポ良い文章と親しみある挿絵で描かれています。

### 炎上 CM で読み解くジェンダー論 ／瀬地山角



SNSが発達した現代、「CM」と「炎上」は切っても切れない関係となった。とりわけジェンダーに対する無理解に端を発する炎上案件は数知れない。一方で、新しい人間や家族のかたちを描いて共感を抱かれた広告もいくつか存在する。両者をわかつものは何だったのだろうか？

## 【編集／発行／問合せ先】

玉野市男女共同参画推進センター 玉野市奥玉1-18-5（すこやかセンター内）

TEL:(0863) 33-7867 E-mail:danjyo@city.tamano.okayama.jp